

・・・ベエリの子ホセアにあった主のことは。主がホセアに語られたことのはじめ。主はホセアに言われた。・・・

ホセア書 1 章 2 節

彼女は言う。「私は初めの夫のところに戻ろう。・・・」 同 2 章 7 節

「再び行って、夫に愛されながら貫通している女を愛しなさい。ちょうど、ほかの神々の方を向いて干しぶどうの葉子を愛しているイスラエルの子らを、主が愛しているように。」 同 3 章 1 節

「わたしは彼らの背信を癒し、喜びをもって彼らを愛する。」 同 14 章 4 節

紀元前 8 世紀半ば、繁栄に陰りが見え始めていたにも拘わらず、背信を繰り返す北イスラエルに、神はホセアを預言者として遣わされました。1〜3 章には、ホセアとゴメルとの婚姻関係が記されています。姦淫の女ゴメルと結婚、不義の子を残して

去ってしまった妻を迎えに行くように命じられています。人間的には不条理なことを強いられているホセアですが、このことは彼の預言と深く関係していることが分かります。神にとってイスラエルは、霊的姦淫を犯している妻であり、しかも、神は、その民

を愛し続け、戻ってくるのを待っておられるのだと、ホセアは語っているのです。この出来事を通して、ホセアの姿勢からは、危機が迫っている時には特に、主の語りかけを聴き続けている・・・という経験、また、受けとめ難いことであっても、主の命令に服従する者が用いられることを教えられます。

ゴメルからは、どんなに霊的に恵まれた環境にあっても、その人がそれを受けとめるとは限らず、逆に全く神から離れてしまふことさえあること、それでも、自分ではどうすることもできないどん底において、助けが神からくることも教えられます。ゴメルのしたことは迎えに来てくれたホセアについて「戻る・帰る」という行動をとったことでした。

【報告 消息】

・シオン教職者会 8日にインターネット会議の形式で開催し、1時間半程の集まりを持ちました。コロナ禍にあっても顔と顔を合わせて各教会と教職者の近況を語り合えることを感謝します。今回は林真光修養生もはじめて出席しました。シオン教職者のために引き続きお祈りください。

・林修養生 11日より沼津シオンへ実習奉仕で出向しています。17日(木)に蒲田に戻る予定です。

【外部集会のお知らせ】

今年度は、様々な外部集会も中止やオンラインでの実施となっております。毎年ご案内しているJHA聖化大会もインターネットでの配信でYouTubeで見ることが出来ます。また、蒲田シオンがサテライト会場となっており、礼拝堂のモニターで映像を流すので教会でもご覧いただけます。詳しくは受付のチラシにて。

日程 10月20日(火)

聖会Ⅰ 午後2時～3時半

聖会Ⅱ 午後6時半～8時

講師 工藤弘雄師

(日本イエス・キリスト教団)

■支援献金募集 九州南部等豪雨災害

支援金を受け付けています。被災地域、被災者の方を覚えて祈りましょう。

大型の台風が日本、特に西日本に接近しています。各地が守られるようにも祈りましょう。

■次週 礼拝説教箇所「ゼカリヤ書」

ゼカリヤとは「主が覚えてくださった」という意味です。イスラエルでは一般的な名前です、聖書中にも大勢見られます。

ゼカリヤ書は預言者ゼカリヤの言葉で、バビロン捕囚から帰還したイスラエル人を神殿建設へと励ましたハガイと同じ時代に活動しました。

ゼカリヤ書にはキリストについての預言が多く語られています。ゼカリヤは、目に見える神殿の完成が真の栄光と祝福ではなく、メシアの待望(初臨)とやがて来る主の日(再臨)の望みという未来の栄光について語っています。

■教会メールアドレス

zion@am.wakwak.com

メールには必ずお名前をご記入ください